

2013年 春合宿

## 飯豊連峰大日岳 飯豊裏川ぐるり一周 創立50周年記念合宿

阿部信一

2013年5月3日～6日

メンバー：阿部信一(C L)、白倉穂高(S L)、渡辺康博(S L)、 姉崎由美子(食当)、  
西口達也(装備)、堀口寿彦、大平美紀、瀬賀真亮、山崎哲也

コースタイム

5月3日 出発(8:40)～(10:50)要所口ワイヤー渡(11:20)/(1:50)～P523m(13:30)～  
P788m(14:50)～テント泊(15:50)

5月4日 出発(5:20)～(6:50)木下し～P1180m(8:15)～P1392m(10:30)～P1410m(11:00)～  
烏帽子山(11:35)/(11:55)～テン泊(15:10)

5月5日 出発(5:10)～P1720m(6:35)～西大日岳(8:05)～大日岳(9:00)/(9:30)～  
櫛が峰(11:10)～テント泊(16:25)

5月6日 出発(6:15)～水晶尾根(8:10)～大根おろし(9:10)～鉄塔(14:00)～分峠(15:15)～  
車道(15:35)～駐車場(15:40)

10年ぶりの飯豊連峰最高峰大日岳、裏川ひとまわり合宿である。10年前と大きく変わった事は今年の夏、胃がん切除で半分以上胃が小さくなったことか？体力に自信、全くなしである。それでもよしというリハビリ山行である。リハビリにははいじめられたが。

このコースはほとんど道がなく山菜、熊打ち、獣道との共有山行であることが一番の特徴ではないだろうか。

前回の10年前の話を少ししよう。

登りの裏川のワイヤーでの横断で、熊打ちの人に、すこしでも音をたてたら“鉄砲で撃つ”と脅され。下りの水晶峰では日出谷猟師さんからは、捕りたて、さばきたての熊肉料理とビールをごっつおうになった。(最も登りのワイヤーは猟師の人たちがつけたものである)朝食を食べたばかりなのにすごく美味しかった記憶が鮮明にのこっている。いただいたのは松坂さんとまるちゃんと私の3人だけだった。先に進んで水晶峰でずーと待っていたみなさんすみませんでした。

さて、個人的な意見だがこの全ルートの特徴は熊やカモシカと同じにならないと通過できない困難なコースだと思う。「藪山」と一言

で言うが飯豊山塊でも特に烏帽子山周辺の藪は奥が深い。足が大地に着かずイヌツゲ、シヤクナゲの粘り腰に勝てず五葉松にリュックを取られ、ひっくりかえったら足が抜けない。黒文字の木を口で噛みつつ歯ぎしり苦笑い。兎にも角にも心を「無」にし、修行僧のごとく、じっと忍耐のみである。とにかく自分に勝たないと一歩も前に行かず跳ね返される。怒らない、憎まない只ひたすら「無心」ここに来たことへの後悔も抑えて、抑えて……。ただ「無心」でかき分ける。それがこのルート通過の大きな特徴だと思う。

ほかには裏川横断と大日岳牛首、大根おろしの下降がポイントでもある。それと大日岳の強風はいつも天下一品である。

5月3日

寒気の抜けきれない朝 5:30、新潟発。高速で津川へ 6:20。狐の嫁入り行事の朝で、コンビニはおにぎりの山。桜のきれいな麒麟山、角神ダムから日出谷、実川でサラダ用コゴメを採取。先行車のトレースはあるがさすが普通タイヤでは危ない。何度かのスタックであきらめ、車放棄 7:40。除雪はしていない。今年の残雪は多い方だと思う。ブナもこの辺が

新芽限界。標高 250m。仕度をして出発 8:40。堰堤のある林道終点まで 20 分歩く。9:00 着。清水の脇の美味しい立派なクレソンをいただく。ここからの道はなかなか難しい。踏み跡はあるのだが、雪解けしたばかりのせいだけではない。上へ下へとルートファインテングに迷う。やや開けた地形がでてくると裏川渡渉点の要所口も近い。藤島玄さんの飯豊大地図では対岸に入る小倉沢に渡渉点がある。ワイヤーがあるかもしれないが、確認はしなかった。

雲の多い寒い日である、時々小雨も降る。筆塚山と焼曾根山との間に白蓬沢（しろよもぎさわ）が入る。その出会い、筆塚山側に猟師小屋らしきものが見える。その川原を目指して張ってあるはずの渡渉用のワイヤーが、ない。ない。ない。流されたか。ぎよぎよ！じえっじえっじえ！エー！この山行もここで退散！敗退。悪い予感が背筋を走る。

その昔、釣師でもあった明間さんからその少し上流のゴルジュ付近にも、ワイヤーがあるような話を思い出し、探してみることにする。ただ、信じられないことに今年の裏川は澄み切っていて、雪解けの濁った水が流れていないのだ。腰くらいまで覚悟すれば渡渉はできる状態ではある。沢合流点より 100m くらい上のゴルジュ入り口あたりが一番可能性が高い渡渉点と思って川筋を見ていたら、その真上にワイヤーがかかっていた。まだそんなに古くなく、さびていないので鼠色は、自然の色に溶け込み、よく見えなかったのだ。太さは 3 分の 9.5mm である。長さは約 25m はあるか？前回のワイヤーより短い。

前回はあの濁流の水面ぎりぎりのたわんだワイヤーでびびり、「コゴメ取りして帰りましょう。」という声を無視して私が強引に先行渡渉し、みんなを帰れなくした。あの時、一番の帰りたいと主張したのは山口晋平だったか？

今回は、要所口 10:50 着。チロリアンブリッジ開始 11:20、終了 12:50。穂高がトップで向こう岸に渡る。急斜面の途中の木の下のわずかな足場が到着点となり、足場が悪く滑車

からカラビナをはずすのが難しい。スリングの長さが明暗を分ける。引き上げ役の山崎哲也君、力を使い果たした。御苦労さん。

上の台地で軽く昼食をとっていると新潟からという釣り屋さんが渡渉で追いついた。何回も来ているとか。小雨からみぞれ小雪となってくる。今日から晴れるといていたのは誰だ！

焼曾根（ヤキゾネ）788, 6m への尾根は、やせているところは踏み跡が残るが急斜面の藪はつらい。葉っぱが出たらもっと大変だろう。尾根取り付き標高 300m。合宿一日目の急斜面の藪はきつい。とくに山頂近くは急である。15:00、小雪の舞うヤキゾネ山頂着。先に着いて待っているのは寒そう。やせ尾根を下りまた登る。次のピークに残っている残雪が使えるのでテン場とする。16:00。予定はこの先の“木下し”だったが……。届かなかった。

最終日下山コースの水晶峰は裏川を挟み目の前だ。大根おろしの急斜面が呼んでいる。ジッキラ松の頭は見えるが大日岳は雲の中。いつ微笑むか楽しみだ。テントはエスパース二つ。寄り添って張る。

蒜場山から烏帽子山を目指している豊栄山岳会の無線が鮮明に入るが、交信まではいかなかった。豊栄山岳会のテン場であろう稲葉の平までぴったり 5km である。大日岳までも直線で 6.5km しかないが、地図上の距離と実際歩く難儀は違う。この先が思いやられる…。

会津の夜景がときどきのぞく。明日はがんばらねば。

5月4日

まじめに 3:00 起床。出発 5:20。まあまあの天気である。やせ尾根の下りから始まる。鞍部からの登りは急峻で藪が濃い。雪もところどころ出てくる。急の藪はまじめで苦しい。朝一からいじめられる。筆塚山が目の前だがその高さをなかなか越えない。前回の合宿後、筆塚山の沢登りで山頂に立った白蓬の長松沢が目の前に見える。あれもすごい藪山行だった。

木下し手前で雪の上となる。筆塚の合流点はここである。雪の歩行は天国だ。傾斜も落ち絶好のテン場である。先回はここで張ったのだが雨でいじめられた。そこからすぐの藪は強烈、花はきれいだが藪はきびしい。石楠花とイヌツゲ。一步前も見えない。左の雪の尾根にトラバースする。急な登りだが藪より良い。1170mピーク 8:30 分。次のピーク 1270 mが“ひきあげ”か。筆塚山との合流点である。蒜場山、棒掛山が目の前にせまる。やせ尾根の藪と雪のミックスである。シゲハナ、ジッキラ松尾根の合流点がタアバナか。これぞ風雪の岳樺という立派な木が開けた尾根に存在を示す。下烏帽子(?)までゆるい登り。急登で登ったところが下烏帽子だと思いが日地出版のガイドマップは違うところになっている。新雪に 20 c mくらい覆われたガンコウランの絨毯の烏帽子山は 12:00。7 回目の烏帽子山頂。飯豊のなかでも一番好きな山頂である。

記念写真もそこそこに北峰に向かう。降りたところで単独の新発田山岳会の若林さんと会う。北峰より一気に 150mほど急降下。雪が堅いと怖いところとなるがざくざくで降りやすい。鞍部 13:00。

馬糞穴(マグソアナ)は徐々に雪がつながっている。左斜面へトラバース。ここの藪漕ぎ無しはラッキーであった。トラバース完了 14:30。また下り、鞍部 15:00。1500mピークに上がったところでテン場とする。15:30。天気も回復ぎみ大日方面のガスも時々切れてきた。きれいな夕日が見られそう。鴨汁も外で作る。雲上の極みという贅沢な景色の夕食となる。星も新潟方面の夜景も素晴らしい夜となる。

5月5日

第3日目。起床 3:00。鴨鍋雑炊で朝食。出発 5:10。ガスと風があるが、まあまあ回復の予感。金華穴峰(キンカアナミネ) 6:50。トップはけっこうなラッセルみたいだ。実川峰 8:00。ガスも切れ予定通り、飯豊山本山も顔を出す。薬師岳 9:00。風もだんだん強くなり

始める。ここからは傾斜もゆるくなり稜線漫步となる。

大日岳山頂に人影が見える。西大日岳を越えればもう最高峰の大日岳が待つのみ。途中山頂から降りてきた山形のスキーヤーとすれちがう。

大日岳山頂着 9:45。風が強い。風をよけながらアイゼン装着。テープハーネスで下降の準備をする。日は差しているのだが寒い。西股より北股岳目指している別パーティーの山口晋平、影山秋子とは見える範囲だが無線はつながらない。少し下ると牛首への急斜面となる。前回はロープをつけず和田晴枝のスリップ滑落で肝を冷やしたので今回はロープ下降とする。雪の状態がそんなに悪くなくフィックスロープのプルージック下降とする。10:15。2 ピッチで急斜面は終わる。牛首鞍部 11:15。風は強いが風の影は日差しが心地よい。

櫛ヶ峰 13:00。ここでも“じえ、じえ!”かつての名クライマー片野愛子女子に遭遇である。今は楽山会で藪山専門とか?息も切れてなくさわやか。私より年上のはず。ちなみに私は 66 の春である。

連休前半の寒波の雪は 40 c mくらい積もったと思われラッセルつぼ足で 20 c mはもぐる。クレバスに新雪入り込み、あちこちがはまり勾配で、皆ズボズボ。あっちに落ち、こっちにハマリしている。でもこの辺の藪も雪の下で助かる、前回より相当楽である。おんべ松にトレースがあった。オコナイ峰から笠掛山は、クレバスにもがいたり、シリセードをしたり。笠掛 15:40。笠掛下に広い窪地の雪原が出てくる。雪がないと笠掛沼が顔を出すのであろう。そろそろ 11 時間行動となる。テン場はなるべく水晶峰近くと想っていたが、最低鞍部手前の 1235m付近で幕営とする。烏帽子が目の前だ。16:20。岳樺の大きい木がかっこいい場所である。大日の展望台の鏡山と立石山が実川を挟んで目の前だ。鏡山との直線状に湯ノ島小屋がある。名前からして温泉があるはずだ。最後の夕食も鴨汁だが前の日と味付けを変えよう。あすの起床はゆっくりにしよう。

5月6日

最終日。4:00 起き。6:10 発。天気快晴3日間歩いた稜線が朝日に光っている。天気は下り坂の予定。水晶峰 8:05。ここからの烏帽子山、大日岳景色は飯豊一番のロケーションかも。今日で4日目。3日間歩いたルートが一望。烏帽子の荒々しさと大日岳の大きさと雄大さ。どれひとつとっても絵になる。

激しい藪漕ぎで大根おろしの上に 9:00。3回目の大根おろしだがいつも緊張させられる。急峻はもちろんだがルートファインディングが難しい。左、左へとルートをとるのが正解か？

最後の岩場は懸垂したがプルーシック下降は難しい。皆苦勞した。リュックを先に下ろして行動するほうがいいのかもかもしれない。

降りてから見つけたのだが下から岩場右側に10mmのロープがフックスされていた。3年前、パキスタン、伝説のウルタルⅡを第2登をした新発田の高橋堅さんと登った時は、このロープはなかった。登りは必要ではないが下りは安全の為に有効かもしれない。

9人無事下降終了11:10。昭文社の“山と高原10 飯豊山”2011年製の「大根おろし」の位置は500mほど下となっている。(玄さんの大地図も)。

ここから“高目当”までは1km。1kmはた

かが1km、されど1kmの真骨頂の藪、“これぞ飯豊の藪を”いやおうなく感じさせてくれる、満足度200%の2時間となる。全員無口。高目当13:00。さすがの強力な山崎も、最後の雪の急斜面を前に、西口にザイルをあずけた。

今までの快晴が、予想通りに雲が濃くなる。イワウチワの可憐なピンクがすさんだ心をなぐさめてくれる。藪と雪のミックス下降道。尾根のはずれに実川から急斜面をかけあがる送電線と鉄塔が見える。そこまで行くと送電線用の整備道で後は一気に尾根道下降で終了点実川である。途中にあるブナ林の素晴らしい窪地にある沼が黒松沼か？そのころから時々雨があたり始める。鉄塔道14:00。待っていたかのごとく雨が本降りとなる。途中コシアブラを採りながら下降。松之山美人林に負けないブナ新緑をめめながら19番20番の鉄塔鞍部、堀切窪をめざす。15:10。堀切窪着。左の実川へ花の峠道楽しみながら実川へ。

15:40。駐車場着。迎いの阿部信彦さん、東海林友美さん、西口陽子の差し入れサッポロビールで「かんぱ〜い」お疲れ様でした。津川にきたら“青柳”の馬刺し、レバ刺し。清川高原のぬるぬる風呂で4日分の汗を流し、新潟帰着21:00でした。



後列 堀口、山崎、白倉、西口、大平、阿部、渡辺 前列 瀬賀、姉崎